

1

1.1 Newtonの運動力学

・ 第1法則(慣性の法則)

「すべての物体は、力を加えて、その状態を変えない限り、静止、または直線上の一樣な運動を続ける。」

2

1.1 Newtonの運動力学

・ 第2法則(運動量の法則)

「運動量が時間とともに変化する割合は、その物体に働く力に比例し、かつ、力が働く直線方向に起きる。」

運動量(ベクトル) : $m\mathbf{v}$	質量	: m
$\mathbf{F} = \frac{d(m\mathbf{v})}{dt} = \frac{d}{dt} \left(m \frac{d\mathbf{r}}{dt} \right)$	速度(ベクトル)	: \mathbf{v}
	力(ベクトル)	: \mathbf{F}
	位置(ベクトル)	: \mathbf{r}
$\therefore \mathbf{F} = m \frac{d^2 \mathbf{r}}{dt^2} = m\mathbf{a}$	加速度(ベクトル)	: \mathbf{a}

3

1.1 Newtonの運動力学

・ 第3法則(作用・反作用の法則)

「どのような力の作用にも、大きさが等しく方向が反対の反作用力が存在する。」

4

1.1 Newtonの運動力学

・ 質点系の力学

質量のみあって、大きさのない点: 質点 m_i

質点の集合体: 多質点系 $\{m_i\}$

質点間の距離が変わらない: 剛体

質点間の拘束がない: 自由体

多質点系の外部から質点 m_i に作用する力: **外力** F_i

質点相互の拘束によって働く力: **内力**

m_j から m_i に作用する内力 F_{ij}

5

1.1 Newtonの運動力学

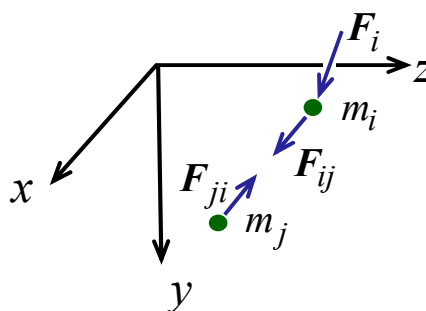
・ 質点系の力学

質量のみあって、大きさ

質点の集合体: 多質点系

質点間の距離が

質点間の拘束がな



多質点系の外部から質点 m_i に作用する力: **外力** F_i

質点相互の拘束によって働く力: **内力**

m_j から m_i に作用する内力 F_{ij}

6

1.1 Newtonの運動力学

Newtonの第3法則より、

$$\mathbf{F}_{ij} = -\mathbf{F}_{ji}$$

Newtonの第2法則より、
質点 m_i について、

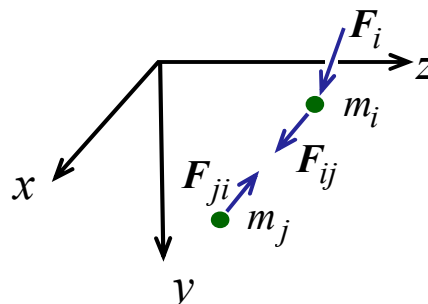
$$\mathbf{F}_i + \sum_j \mathbf{F}_{ij} = \frac{d(m_i \mathbf{v}_i)}{dt}$$

多質点系を構成するすべての質点を足しあわせると、

$$\sum_i \mathbf{F}_i + \sum_i \sum_j \mathbf{F}_{ij} = \frac{d}{dt} \sum_i (m_i \mathbf{v}_i)$$

第3法則より、左辺第2項=0なので、

$$\sum_i \mathbf{F}_i = \frac{d}{dt} \sum_i (m_i \mathbf{v}_i)$$



7

1.1 Newtonの運動力学

Newtonの第3法則より、

$$\mathbf{F}_{ij} = -\mathbf{F}_{ji}$$

Newtonの第2法則より、
質点 m_i について、

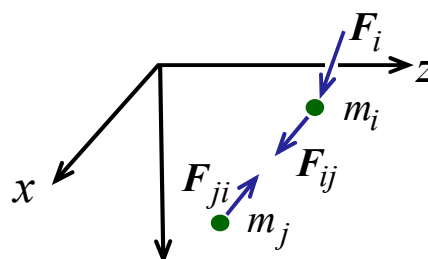
$$\mathbf{F}_i + \sum_j \mathbf{F}_{ij} = \frac{d(m_i \mathbf{v}_i)}{dt}$$

多質点系を構成するすべての質点を足しあわせると、

$$\sum_i \mathbf{F}_i + \sum_i \sum_j \mathbf{F}_{ij} = \frac{d}{dt} \sum_i (m_i \mathbf{v}_i)$$

第3法則より、左辺第2項=0なので、

$$\sum_i \mathbf{F}_i = \frac{d}{dt} \sum_i (m_i \mathbf{v}_i)$$



多質点系の運動量が
時間的に変化する割合は、
外力の合力に等しく、
内力には無関係

8

1.1 Newtonの運動力学

運動量モーメント $\mathbf{H}_i = \mathbf{r}_i \times (m_i \mathbf{v}_i) = m_i (\mathbf{r}_i \times \mathbf{v}_i)$ に関して、
時間 t で微分すると、

$$\begin{aligned} \frac{d\mathbf{H}_i}{dt} &= \frac{d}{dt} m_i (\mathbf{r}_i \times \mathbf{v}_i) = m_i \frac{d\mathbf{r}_i}{dt} \times \mathbf{v}_i + \mathbf{r}_i \times \frac{d}{dt} (m_i \mathbf{v}_i) \\ &= m_i (\mathbf{v}_i \times \mathbf{v}_i) + \mathbf{r}_i \times (\mathbf{F}_i + \sum_j \mathbf{F}_{ij}) = \mathbf{r}_i \times (\mathbf{F}_i + \sum_j \mathbf{F}_{ij}) \end{aligned}$$

多質点系を構成するすべての質点を足しあわせると、

$$\sum_i \frac{d\mathbf{H}_i}{dt} = \sum_i (\mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i) + \sum_i (\mathbf{r}_i \times \sum_j \mathbf{F}_{ij})$$

第3法則より、右辺第2項=0なので、

$$\frac{d}{dt} \sum_i \mathbf{H}_i = \sum_i (\mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i)$$

9

1.1 Newtonの運動力学

運動量モーメント $\mathbf{H}_i = \mathbf{r}_i \times (m_i \mathbf{v}_i) = m_i (\mathbf{r}_i \times \mathbf{v}_i)$ に関して、
時間 t で微分すると、

$$\begin{aligned} \frac{d\mathbf{H}_i}{dt} &= \frac{d}{dt} m_i (\mathbf{r}_i \times \mathbf{v}_i) = m_i \frac{d\mathbf{r}_i}{dt} \times \mathbf{v}_i + \mathbf{r}_i \times \frac{d}{dt} (m_i \mathbf{v}_i) \\ &= m_i (\mathbf{v}_i \times \mathbf{v}_i) + \mathbf{r}_i \times (\mathbf{F}_i + \sum_j \mathbf{F}_{ij}) = \mathbf{r}_i \times (\mathbf{F}_i + \sum_j \mathbf{F}_{ij}) \end{aligned}$$

多質点系を構成

$$\sum_i \frac{d\mathbf{H}_i}{dt} = \sum_i (\mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i) + \sum_i (\mathbf{r}_i \times \sum_j \mathbf{F}_{ij})$$

第3法則より、右

多質点系の運動量モーメントが
時間的に変化する割合は、
外力のモーメントの総和に等しく、
内力のモーメントには無関係

$$\frac{d}{dt} \sum_i \mathbf{H}_i = \sum_i (\mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i)$$

10

1.2 力のつり合い条件

多質点系の運動量について、 $\sum_i \mathbf{F}_i = \frac{d}{dt} \sum_i (m_i \mathbf{v}_i)$

運動量モーメントについて、 $\sum_i (\mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i) = \frac{d}{dt} \sum_i \mathbf{H}_i$

Newton力学 $\left\{ \begin{array}{l} \text{静力学} \cdots \text{運動量の時間的変化を無視} \\ \text{動力学} \cdots \text{時間的変化を無視できない} \end{array} \right.$

したがって、上2式の右辺=0なので、

$$\left\{ \begin{array}{l} \sum \mathbf{F}_i = 0 \\ \sum (\mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i) = 0 \end{array} \right. \quad \text{外力のつり合い条件}$$

11

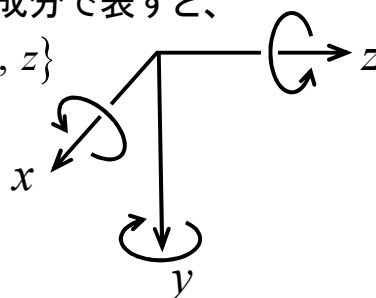
1.2 力のつり合い条件

力(ベクトル)、位置(ベクトル)を成分で表すと、

$$\mathbf{F} = \{F_x, F_y, F_z\}, \quad \mathbf{r} = \{x, y, z\}$$

$$\sum \mathbf{F} = 0 \Rightarrow \left\{ \begin{array}{l} \sum F_x = 0 \\ \sum F_y = 0 \\ \sum F_z = 0 \end{array} \right.$$

$$\sum (\mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i) = 0 \Rightarrow \left\{ \begin{array}{l} \sum (y \cdot F_z - z \cdot F_y) = 0 \quad \cdots x \text{軸} \\ \sum (z \cdot F_x - x \cdot F_z) = 0 \quad \cdots y \text{軸} \\ \sum (x \cdot F_y - y \cdot F_x) = 0 \quad \cdots z \text{軸} \end{array} \right. \quad \text{まわり}$$



12

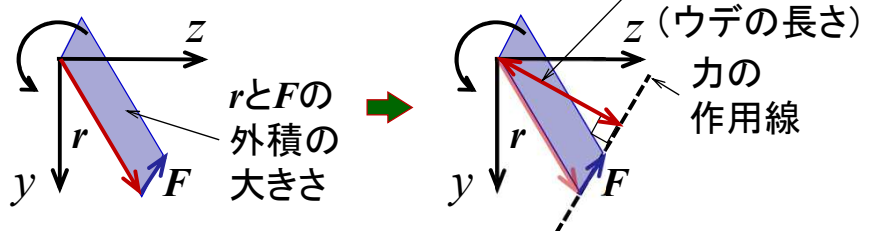
1.2 力のつり合い条件

本講義で主に扱う2次元平面 (y - z 平面) では、

$$\sum \mathbf{F} = 0 \Rightarrow \begin{cases} \sum F_y = 0 \\ \sum F_z = 0 \end{cases}$$

$$\sum (\mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i) = 0 \Rightarrow \sum (y \cdot F_z - z \cdot F_y) = 0$$

※モーメントの求め方



13

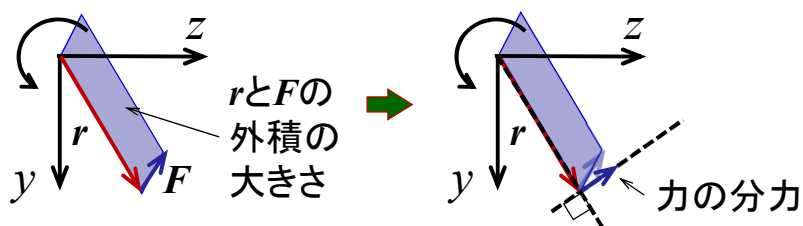
1.2 力のつり合い条件

本講義で主に扱う2次元平面 (y - z 平面) では、

$$\sum \mathbf{F} = 0 \Rightarrow \begin{cases} \sum F_y = 0 \\ \sum F_z = 0 \end{cases}$$

$$\sum (\mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i) = 0 \Rightarrow \sum (y \cdot F_z - z \cdot F_y) = 0$$

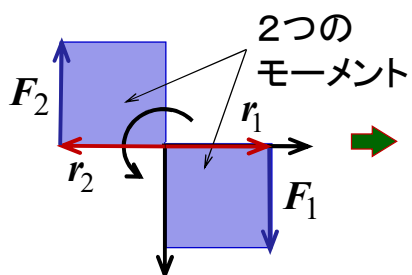
※モーメントの求め方



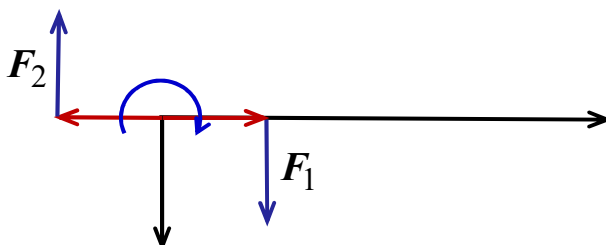
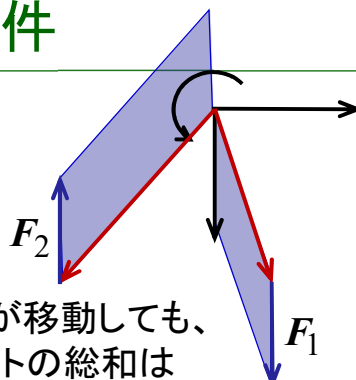
14

1.2 力のつり合い条件

$\sum (r_i \times F_i) = 0$ に関して、



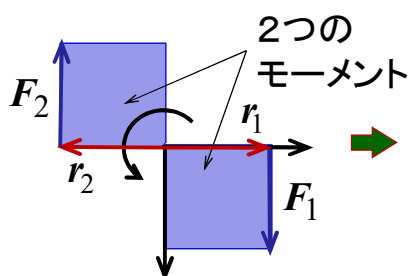
※原点が移動しても、
モーメントの総和は
変わらない。



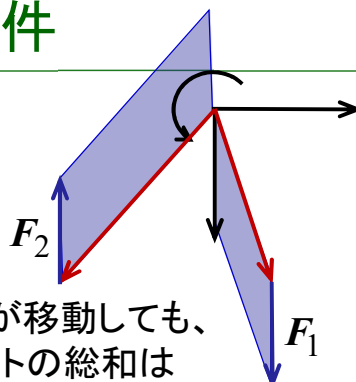
15

1.2 力のつり合い条件

$\sum (r_i \times F_i) = 0$ に関して、

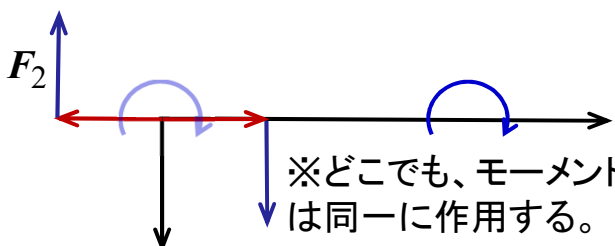


※原点が移動しても、
モーメントの総和は
変わらない。



$$\sum (r_i \times F_i) = 0$$

$$\sum M = 0$$

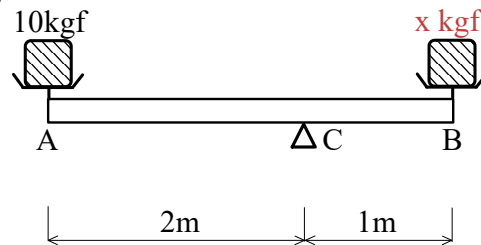


16

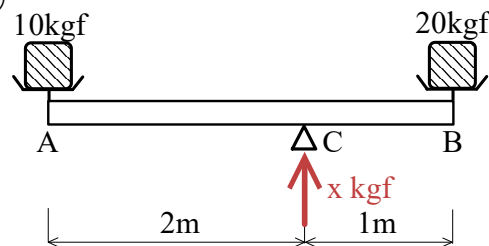
1.2 力のつり合い条件

01:00

例題①



例題①'



$$\sum F_y = 0$$

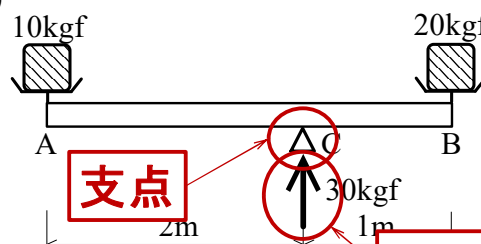
$$\sum F_z = 0$$

$$\sum M = 0$$

17

1.2 力のつり合い条件

例題①



支点

支点反力

$$\sum F_y = 0$$

$$\sum F_z = 0$$

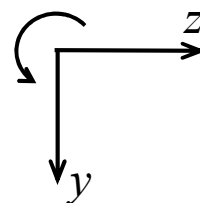
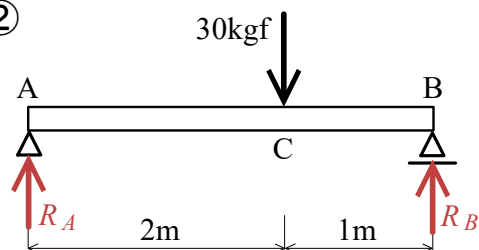
$$\sum M = 0$$

18

1.2 力のつり合い条件

03:00

例題②

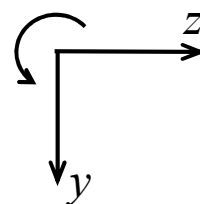
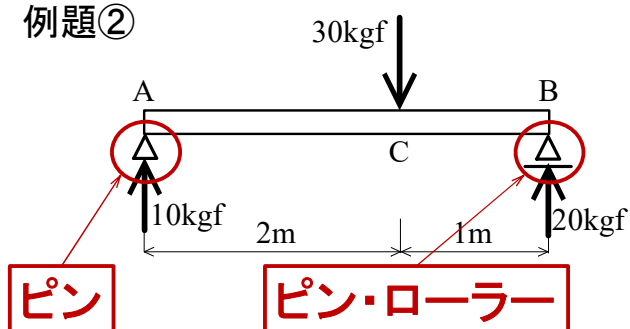


$$\begin{aligned}\sum F_y &= 0 \\ \sum F_z &= 0 \\ \sum M &= 0\end{aligned}$$

19

1.2 力のつり合い条件

例題②



$$\begin{aligned}\sum F_y &= 0 \\ \sum F_z &= 0 \\ \sum M &= 0\end{aligned}$$

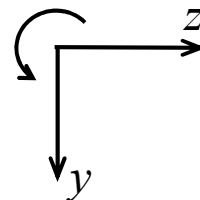
ピンとピン・ローラーで支持された梁を、**単純梁**と呼ぶ

20

1.2 力のつり合い条件

05:00

例題③

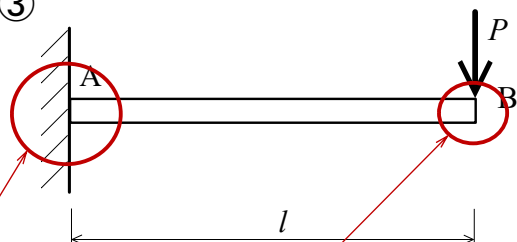


$$\begin{aligned}\sum F_y &= 0 \\ \sum F_z &= 0 \\ \sum M &= 0\end{aligned}$$

21

1.2 力のつり合い条件

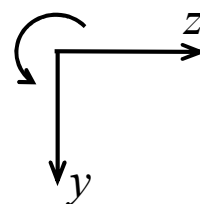
例題③



固定

自由(支点なし)

固定で支持され、他端が自由の梁を、**片持梁**(かたもちばり)と呼ぶ



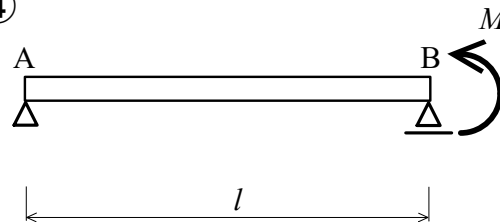
$$\begin{aligned}\sum F_y &= 0 \\ \sum F_z &= 0 \\ \sum M &= 0\end{aligned}$$

22

1.2 力のつり合い条件

05:00

例題④



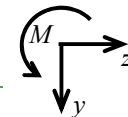
例題⑤



$$\begin{aligned}\sum F_y &= 0 \\ \sum F_z &= 0 \\ \sum M &= 0\end{aligned}$$

23

1.2 力のつり合い条件



材料力学での支持条件

支点反力

名称	イメージ	記号	R_y	R_z	M
固定			↓ あり	→ あり	↺ あり
ローラー			なし	→ あり	↺ あり
ピン			↓ あり	→ あり	なし
ピン・ローラー			↓ あり	なし	なし
自由			なし	なし	なし

24

1.3 内力のつり合い

・ Newtonの第3法則(作用・反作用の法則)

「どのような力の作用にも、大きさが等しく
方向が反対の反作用力が存在する。」

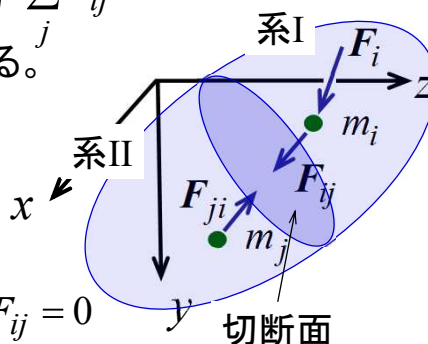
$$F_{ij} = -F_{ji} \quad \Rightarrow \quad \sum_i \sum_j F_{ij} = 0$$

質点系を、系Iと系IIに分ける。

→ 仮想的に切断する。

$$\sum_i^I \sum_j^I F_{ij} + \sum_i^I \sum_j^{II} F_{ij} +$$

$$\sum_i^{II} \sum_j^I F_{ij} + \sum_i^{II} \sum_j^{II} F_{ij} = 0$$



25

1.3 内力のつり合い

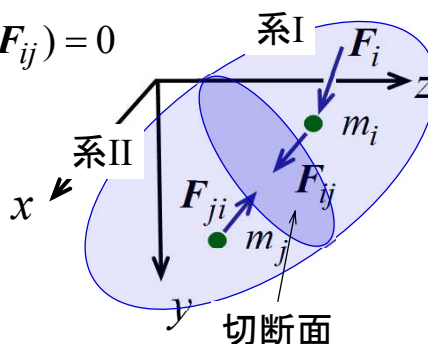
したがって、

$$\sum_i^I \sum_j^{II} F_{ij} + \sum_i^{II} \sum_j^I F_{ij} = 0$$

モーメントに関しても、

$$\sum_i^I \sum_j^{II} (r_i \times F_{ij}) + \sum_i^{II} \sum_j^I (r_i \times F_{ij}) = 0$$

物体を仮定の断面で切断したとき、断面に作用する内力を断面力といい、断面力の総和はつり合っている



26

1.3 内力のつり合い

系IIに着目すると、

$$\sum_i^I F_i + \sum_i^I \sum_j^I F_{ij} + \sum_i^I \sum_j^{II} F_{ij} = 0$$

系IIに
作用する
外力

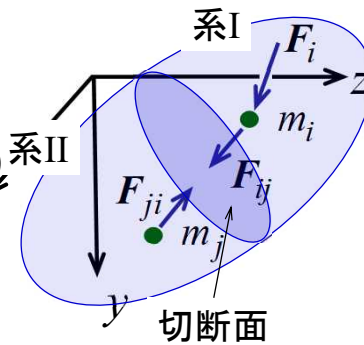
$= 0$

系IIから
系IIに
作用する
内力

切断面に作用する
断面力と、その切断
した系に作用する
外力はつり合っている

モーメントに関しても、

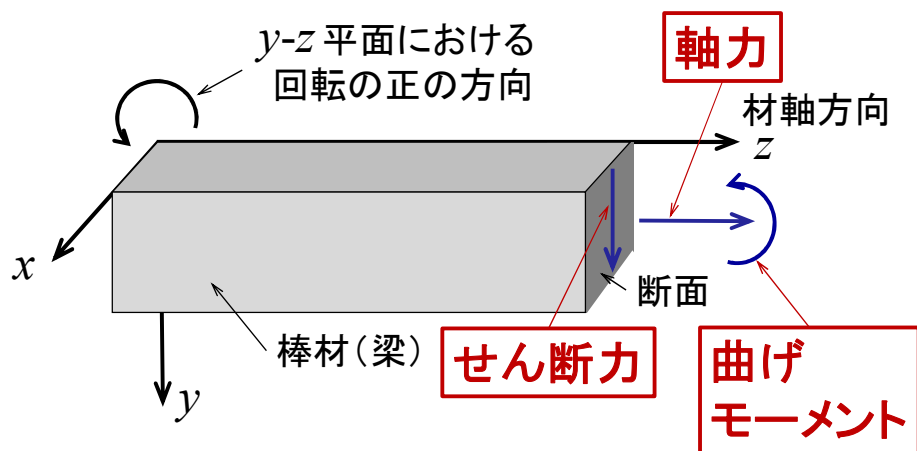
$$\sum_i^I (r_i \times F_i) + \sum_i^I \sum_j^{II} (r_i \times F_{ij}) = 0$$



27

1.3 内力のつり合い

部材の断面力

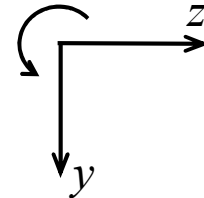
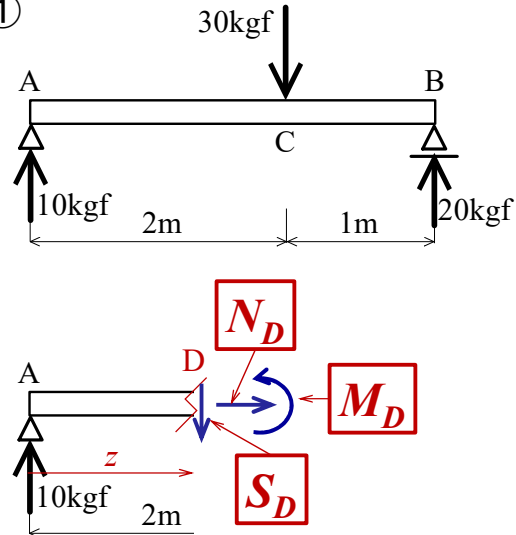


28

1.3 内力のつり合い

05:00

例題①



$$\sum F_y = 0$$

$$\sum F_z = 0$$

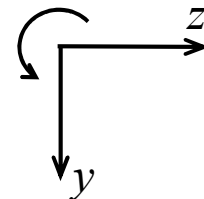
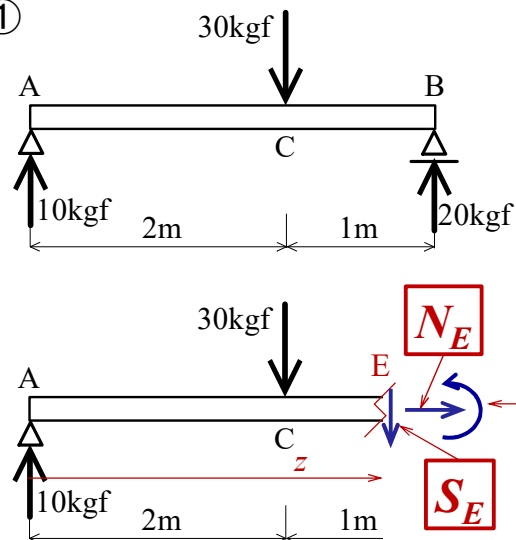
$$\sum M = 0$$

29

1.3 内力のつり合い

05:00

例題①



$$\sum F_y = 0$$

$$\sum F_z = 0$$

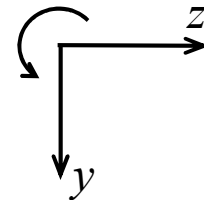
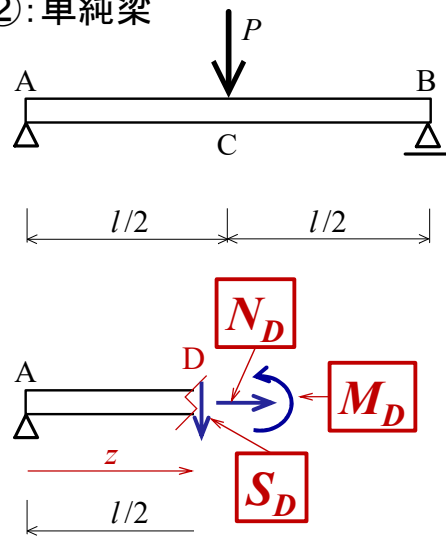
$$\sum M = 0$$

30

1.3 内力のつり合い

05:00

例題②: 単純梁



$$\sum F_y = 0$$

$$\sum F_z = 0$$

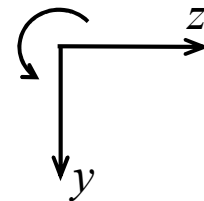
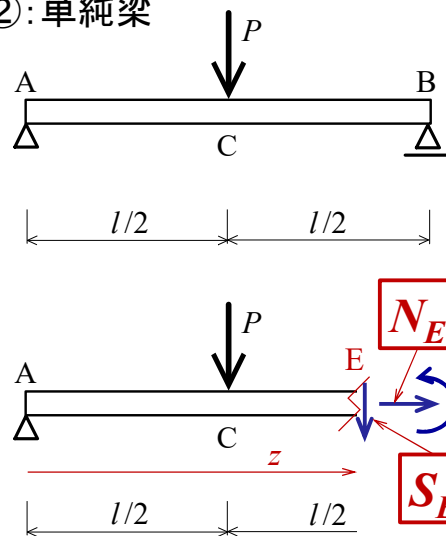
$$\sum M = 0$$

31

1.3 内力のつり合い

05:00

例題②: 単純梁



$$\sum F_y = 0$$

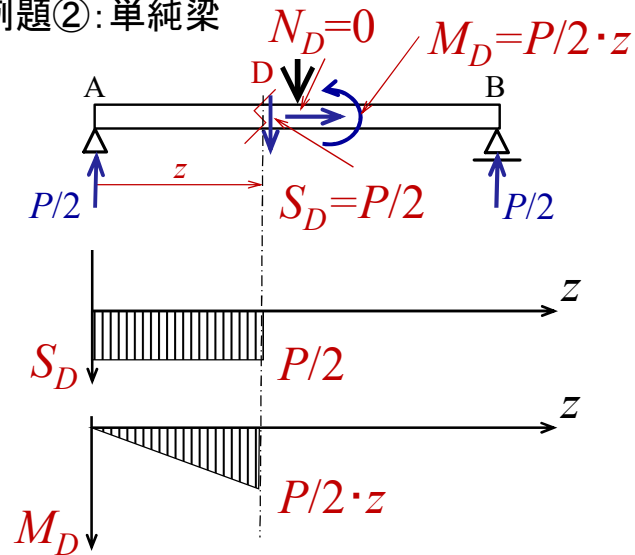
$$\sum F_z = 0$$

$$\sum M = 0$$

32

1.3 内力のつり合い

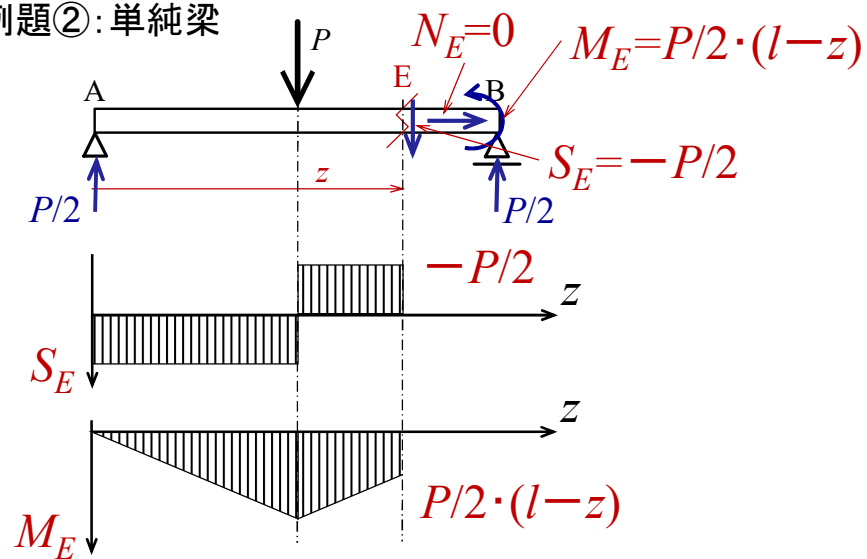
例題②: 単純梁



33

1.3 内力のつり合い

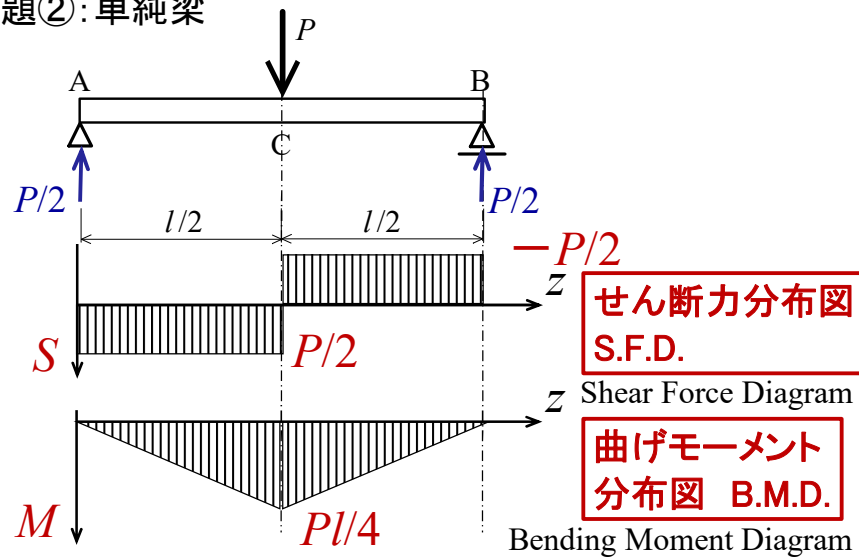
例題②: 単純梁



34

1.3 内力のつり合い

例題②: 単純梁

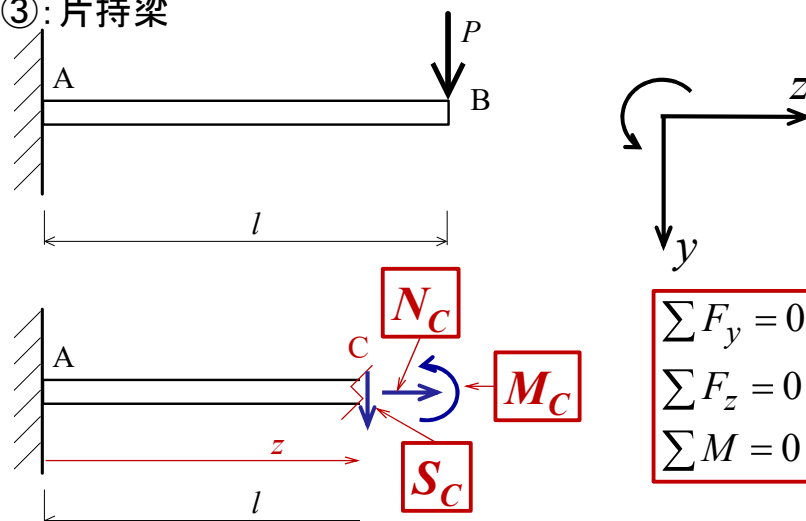


35

1.3 内力のつり合い

05:00

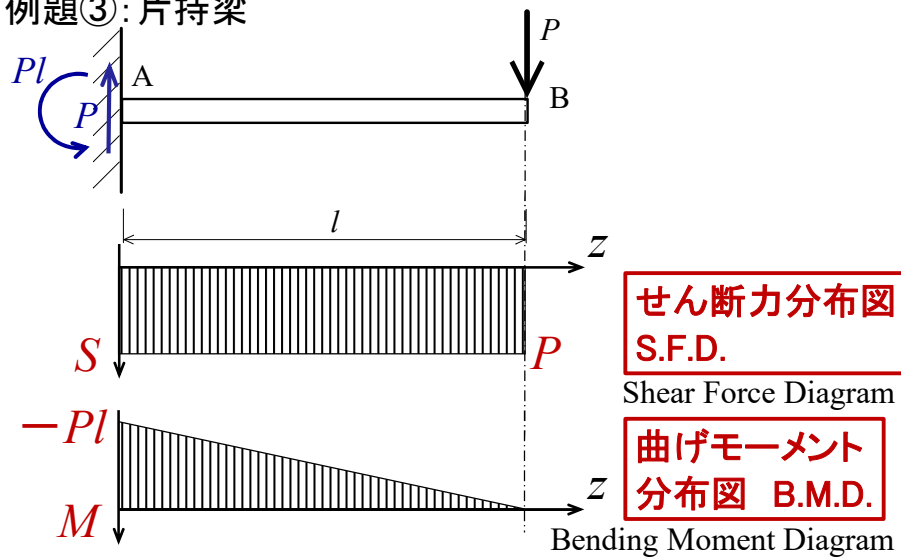
例題③: 片持梁



36

1.3 内力のつり合い

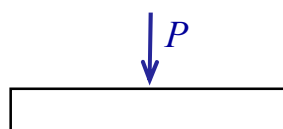
例題③: 片持梁



37

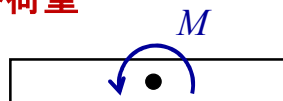
★ 外力の種類

集中荷重



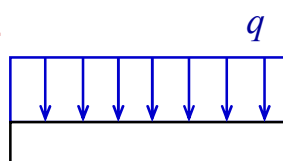
一点に作用する
力

モーメント荷重



一点に作用する
モーメント

分布荷重



ある範囲に作用
する力
棒材の場合、単
位長さあたりの
力で表す

38

★ 分布荷重の考え方

分布荷重が作用する部材の微小部分 dz を考える。
微小部分によって生じるA点の断面力は、

$$dS_A = q(z)dz$$

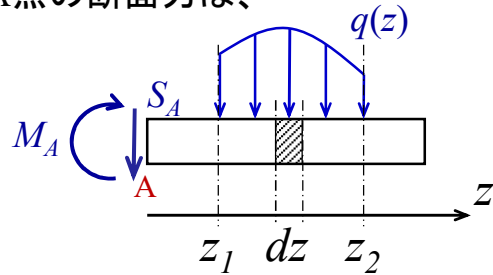
$$dM_A = q(z)dz \cdot z$$



$$S_A = \int_{z_1}^{z_2} q(z)dz$$

$$M_A = \int_{z_1}^{z_2} q(z) \cdot z dz$$

ここで、 $\frac{M_A}{S_A}$ を考えると、...



39

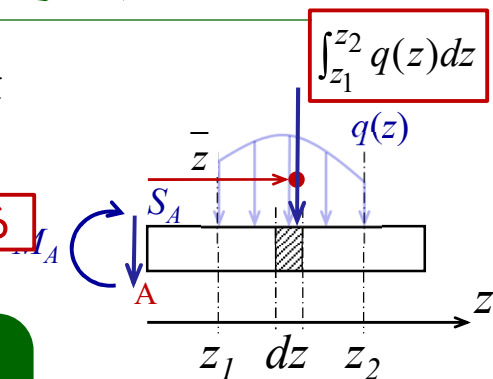
★ 分布荷重の考え方

$$\frac{M_A}{S_A} = \frac{\int_{z_1}^{z_2} q(z) \cdot z dz}{\int_{z_1}^{z_2} q(z) dz} = \bar{z}$$

\bar{z} : $q(z)$ の図心を与える



大きさが $q(z)$ の面積、
作用位置が図心の
集中荷重に置き換え
ばよい

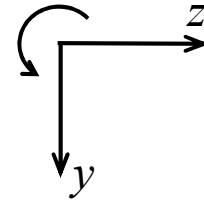
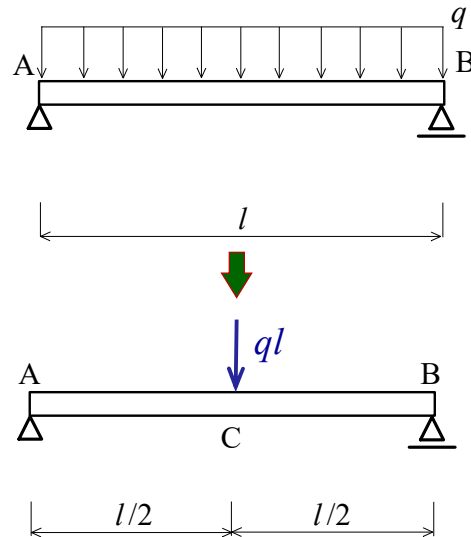


40

★ 分布荷重の考え方

01:00

例題④: 等分布荷重が作用する単純梁



$$\sum F_y = 0$$

$$\sum F_z = 0$$

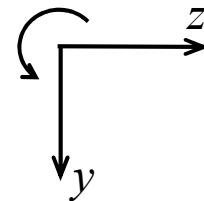
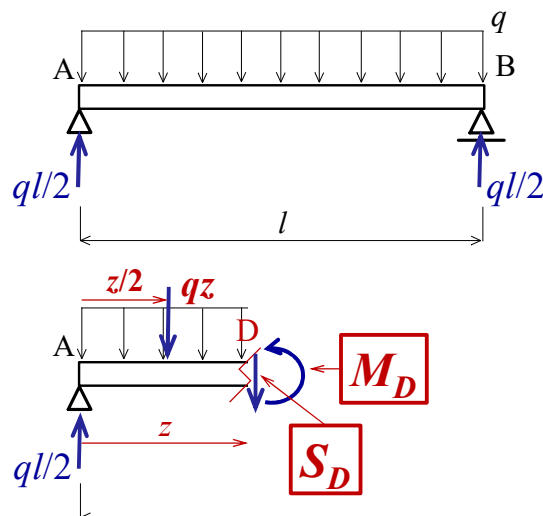
$$\sum M = 0$$

41

★ 分布荷重の考え方

05:00

例題④: 等分布荷重が作用する単純梁



$$\sum F_y = 0$$

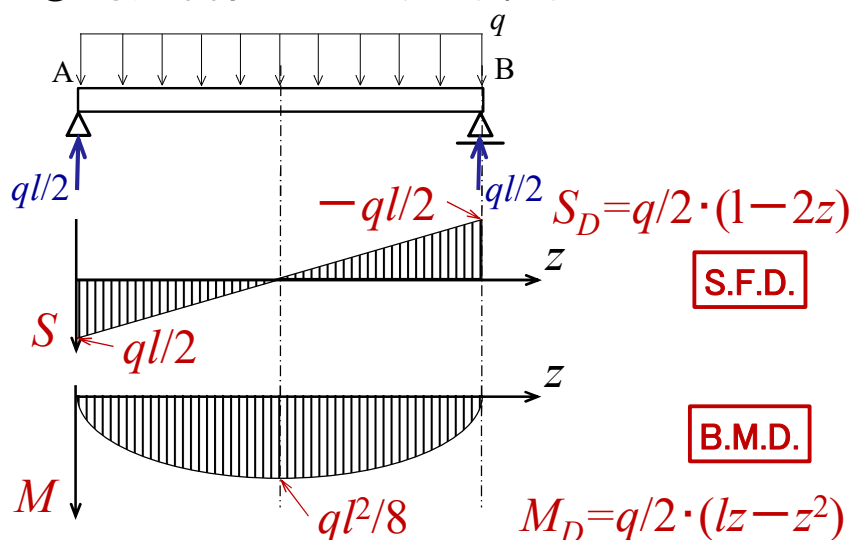
$$\sum F_z = 0$$

$$\sum M = 0$$

42

★ 分布荷重の考え方

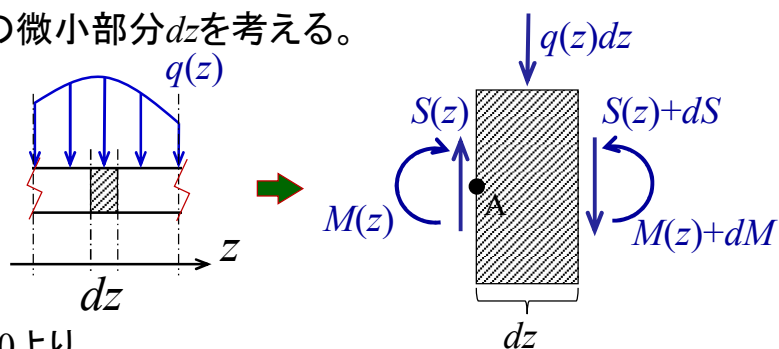
例題④: 等分布荷重が作用する単純梁



43

★ 荷重・せん断力・曲げモーメントの関係

部材の微小部分 dz を考える。



$\Sigma F_y = 0$ より、

$$-S(z) + S(z) + dS + q(z)dz = 0$$

$\Sigma M = 0$ (A点まわり) より、

$$-M(z) + M(z) + dM - (S(z) + dS)dz - q(z)dz(dz/2) = 0$$

$$\therefore dM - S(z)dz - dSdz - q(z) \cdot (dz)^2 / 2 = 0$$

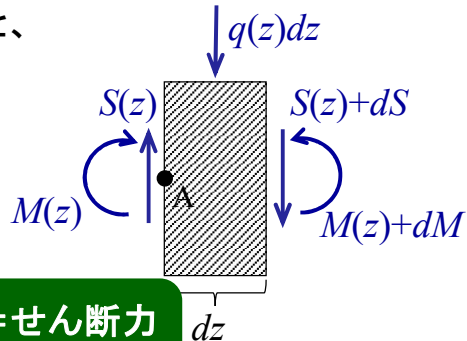
44

★ 荷重・せん断力・曲げモーメントの関係

2次の微小項を省略すると、

$$\frac{dS(z)}{dz} = -q(z)$$

$$\frac{dM(z)}{dz} = S(z)$$


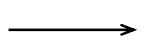



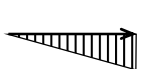

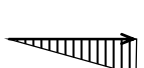
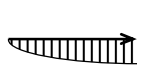





曲げモーメントの微分＝せん断力
せん断力の微分＝荷重

荷重の積分＝せん断力
せん断力の積分＝曲げモーメント

45

★ 荷重・せん断力・曲げモーメントの関係

荷重条件	せん断力 S.F.D.	曲げモーメント B.M.D.
モーメント 	0 	定数 
集中荷重 	定数 	1次式 
等分布荷重 	1次式 	2次式 
分布荷重 (1次式) 	2次式 	3次式 
⋮	⋮	⋮
⋮	⋮	⋮

46

第1章 おしまい